

戦争の思い出

戦争で日本軍の情勢が思わしくなく本土に空襲の危惧があり、縁故疎開や学童疎開などが行われたところ、父が勤めていた会社の社宅が高野線の萩原天神にあり、そこへ疎開することになりました。



親と離れて学童集団疎開

父はその会社の厚生課に勤めており、社宅の管理人として一家で居住することにになりました。家は一戸建ての庭付きお風呂付の、上級社員向けのものでした。よく覚えていませんが20軒くらいあったのではないのでしょうか。

大阪大空襲のときは遠く北の方角に焼夷弾の火花が花火のように続き、



日本人を最も飢えから救った食べ物“さつまいも”

私たちが父のお蔭で空襲の怖い目には合わず、食糧難の時代に田舎であるため、都会の真ん中で暮らすより少しは農作物も手に入りやすかったと思います。庭にさつまいもカボチャなどを植え鶏を飼ったりしました。



大阪国際平和センターの大阪市内の戦災跡の展示

赤々と燃え上がるさまが見えました。翌朝からは荷車に荷物を載せ、頭や体に包帯を巻いた人たちが引きも切らず道を通って避難していきました。

きつちり21日目に卵からヒヨコが生まれるのを知りました。



通勤ラッシュの通勤地獄押し屋が乗客を押し込む

空襲はありませんでしたが、艦載機の急襲があり、そのアメリカの飛行機の操縦士の顔がはつきり見えたのを覚えていました。その飛行機が落ちてしまつたタンクのようなものが社宅の一軒に落ち、昼寝していた子供がなくなりました。

終戦の詔勅もそこで聞きました。雑音の多いラジオで内容が判らず、「頑張りなさい」と言われていると思っていたら隣のご主人から「戦争がすんだよ」と伝わってきた、家中呆然となったのを思い出します。戦争が終わってからの大阪への通勤が悲惨でした。

記：牧戸富美子

日本で東京新宿線と大阪高野線が一番混雑すると言われていたそうです。

生まれ故郷を懐かしく思う

私が生まれ育った地域は、湖西地方高島郡新旭町(現在、高島市)という所です。湖西の深い山なみを流れる安曇川や伏流水に恵まれ自然環境の良い所です。



湖中に浮かぶ白鬚神社の朱塗りの大鳥居

今は雑誌等でスポットが当たる名所、湖中に朱塗りの大鳥居があり国道湖西道路をはさんで社殿が鎮座する延命長寿の神様として知られる「白鬚神社」があります。

又、春の芽吹き・新緑の深緑、秋の紅葉、冬の裸樹・雪花と四季折々に美しい円錐形のマキノ高原へ続く道路沿いに延長約2.4キロにわたって約50本の「メタセコイア並木」の景観地「マキノピックランド」と言えどどの辺りか分かって貰えるかと思えます。



新緑のメタセコイアの並木

若い時は田舎の良さが分からず、都会に出たい気持ちの方が強く、高校卒業と同時に大阪へ。大阪での暮らしの方がはるかに長くなりました。今回、VG 槻輪「わがまち紹介」活動で、滋賀県の膳所城跡に行つて来ました。膳所については、友達との間で滋賀県で有名な膳所高の話題をよくしていました。恥ずかしい話、お城があった事を初めて知りました。慶長5年(1600年)、関ヶ原の合戦で勝利を収めた徳川家康が、本拠江戸城の修復を後回しにしてまで、先ずここ膳所に城を築き上げたそうです。「瀬田の唐橋を制するものは天下を制する」と言われた、瀬田の唐橋に近所で、京都に通じる交通と軍事の要衝として最適地に決められたそうです。津市科学館ロビーに展示

している復元模型を見てさぞかし東海道を行き交う旅人は、この湖面にたらずむ城に心慰められた事かと強く感じました。



湖面にたらずむ膳所城 大津市科学館ロビーに展示の銅板製模型

帰り道、膳所神社表門前の老舗川魚屋店から、鰻のかば焼きのいい匂いがし、店頭には、小アユ・ゴリ・エビ豆など琵琶湖で取れる魚の佃煮が多く並び、思わず立ち止まりました。



琵琶湖特産の小鮎の飴炊き

昔、両親が土産として鰻や鮎の飴炊きを買ってくれたことなど、生まれ故郷を懐かしく思い出しました。

記：明見容子

※白鬚神社・メタセコイアの並木の写真は、びわ湖高島観光協会より提供して頂きました。